

都道府県別賞一等

「知ってほしい、保険のこと」

群馬県 千代田町立千代田中学校 三学年

堀口 優空

中学生という年齢で生命保険について考えている人がどれほどいるだろう。毎日学校で勉強と部活動を行い、友達と笑い合い、いたって健康で不自由のない生活を送っている。もちろん僕もその一人だ。しかし、僕は生命保険の大切さを知っている。中学生の視点から考えた生命保険について、みんなに伝えたいと思う。

僕はもともと生命保険に興味を持っていた訳ではない。きっかけは母の弟にあたる叔父との会話だった。叔父は結婚したら家族が増えるため、生命保険に入るつもりだった。しかし、まさに結婚直前に下垂体腫瘍という病気が見つかった。下垂体腫瘍とは脳腫瘍の一種で基本的には良性だが、完全に腫瘍を取り除くことが難しく、一パーセントでも取り残しがあれば再発する。よって、患者のほとんどが再発するため、死ぬまでその病気の経過を見ていかないとけない。また、国が定める指定難病にも該当するため、入れる保険がかなり限定されてしまうそうだ。

幸い叔父は大掛かりな手術はしたものの、その後は普段と変わらない生活をし、仕事も通常通りに出来ている。普通に仕事が出来ているため、普通に毎月給料をもらうことは出来るが、万が一の時の備えが出来ない。このまま何も起こらず仕事をし続けることが出来れば問題はないが、急にそれが叶わなくなつた時には家族の生活をどう守つたら良いか、とても不安だという。将来自分の子供たちが大きくなり、お金が掛かるようになった時に、自分が働くことが出来ない、さらにまとまった保険金をもらうことが出来なければ、子供たちが学校に行ったり、生活していくことが出来なくなってしまうのではないかと考えると夜も眠れなくなるそうだ。

だから、叔父は僕にも生命保険の大切さを今のうちから知っておく必要性を教えてくれた。元気な時は誰も自分が病気になるとは思っていない。しかし、病気になるってからでは遅い。あの時、「ほんの一瞬早く保険に入っていれば。」と、叔父は何度も後悔したがもう遅かった。

でも叔父はあきらめなかった。家族の将来の安全のために生命保険について調べ、自分が入れる生命保険を探した。すると、今では保険の種類も驚くほど増えているそうだ。健康な人と同じ生命保険に入ることは出来ないが、過去一年間に入院していなければ入れる医療保険や、条件付きで入れる生命保険等を

第60回中学生作文コンクール

見つけている。家族構成や生活環境が一人一人違うように、それぞれの家族に合った保険が無数にある。それを知っているのと知らないのでは大きな違いだ。亡くなったらまとまったお金が入る生命保険と違い、一定期間過ぎたらお金が入る貯蓄型のような生命保険もある。その間のお金の運用実績によっては、お金が増えることもある。それを利用すれば、子供が学校に入学するタイミングに合わせてお金を準備することが出来る。保険に関する無数の可能性についても教えてもらった。

僕も働いて自分で保険料が払えるようになったら、どんな生命保険に入るべきか今から考えている。準備をしておくのに早すぎることはない。これからは貯蓄ではなく、資産運用や投資だというニュースもよく目にする。生命保険もその一つになると思う。「万が一のための備え」を今から考え、将来自分や家族が困ることのないよう、保険について僕らの世代から考える必要があることをみんなにも知ってもらいたい。そして、未知の将来をみんなが安心して過ごせるようになることを願っている。